

②雇用における多様性確保を通じて

特例子会社(株)沖ワークウェルの設立

重度障害者の採用に率先して取り組み、
IT技術者としての活躍の場を拡大しています。

沖電気が2004年4月1日に設立した「株式会社沖ワークウェル」は、日本で初めての、在宅勤務を中心とした重度障害者雇用を専門に行う特例子会社※です。

ITを活用した新たな働き方を提供することにより、通勤が困難な重度障害者の就業機会の拡大に貢献しています。

※ 特例子会社:「障害者の雇用の促進等に関する法律」に定める、障害者の雇用に特別の配慮をした子会社。

「OKIネットワークズ」から
沖ワークウェルへ

沖電気が新たな雇用制度を導入し、3名の重度障害者を在宅勤務の契約社員として初めて採用したのは1998年のことでした。この制度に基づく社員は、基本情報技術者などの資格をもつIT技術者であり、パソコンとインターネットを使って自宅でIT関連業務に携わる「OKIネットワークズ」として、Webサイトの制作やデータ入力などの仕事を担ってきました。その仕事が高い成果をあげたことから、制度の適用範囲を沖電気からグループ各社へと順次拡大し、2004年3月にはグループ5社で計13名のOKIネットワークズが、Webシステム開発やポスターデザインなど、さまざまな業務で活躍するまでになりました。この実績をもとに、障害者の新規採用などの条件を整えて設立したのが特例子会社、(株)沖ワークウェルです。同社は移籍したOKIネットワークズを中心とする22名の体制で2004年4月に業務を開始しました。

障害をポジティブに生かすことをめざして

(株)沖ワークウェルは、“チャレンジとともに「e社会」の創造”を企業ビジョンに掲げています。チャレンジ(the challenged)とは、米語で「障害のある人」を意味する新しい呼称で、障害をマイナスとしてのみ捉えるのではなく、障害があるがゆえのさまざまな体験を自分自身のため、あるいは社会のために生かしていこう、というポジティブな意思が込められています。これを実践していくため、(株)沖ワークウェルでは、障害者の経験や特性を生かした使いやすいITサービスの開発に注力するほか、新たな業務として知的障害者による名刺作成、さらには在宅勤務での障害者雇用制度の導入に関するコンサルティングも開始しました。

日常の業務は、障害のある社員と、お客様との間に立って調整・管理を行うコーディネータが連携して進めています。コーディネータは、お客様との細かな打ち合わせが難しい在宅勤



東京都葛飾区の「ボランティア出前講座」で車いす受け入れ教育の講師を務める



Webサイト制作においてはアクセシビリティへの配慮を重視



(株)沖ワークウェル社員



在宅で勤務するOKIネットワークズ

務者にかわって営業・システムエンジニア(SE)としての役割を果たし、在宅勤務者一人ひとりのスキルや体調に合わせたきめ細かな作業指示や業務分担を行います。この体制により、お客様の望む仕様と納期に合わせた確実な進捗・品質管理を実現し、高い評価を得ています。

ITと経験を生かした社会貢献活動も展開

OKIネットワークズは、沖電気グループの社会貢献活動にも積極的に参加しています。ITのスキルを生かし、ボランティアとしてパソコン教室の講師を務めたり、NPOのWebサイトやポスター作成に協力したりしているほか、居住地域において社会福祉協議会や学校での車いす受け入れ教育に協力している社員もいます。

これからも各人の経験や感性、能力を生かした活躍の場を広げることで、さらに障害者の就業機会拡大を図っていきます。

(株)沖ワークウェルの活動に対する社外の評価

厚生労働省
平成16年度ワンモアライフ勤労者ボランティア賞「ナイスサポート賞」
社団法人日本テレワーク協会
第5回テレワーク推進賞「会長賞」